

さんむ景観通信では、市民の皆様に『景観』を知っていただき、『景観』への意識をより高めていただくため、景観に関する様々な取り組みやイベントについて発信しています。



～第 14 号トピックス～

◆「ブルーフラッグ」認証の取得について

山武市では、次世代に美しい海岸を継承していくために、海水浴場の国際環境認証である「ブルーフラッグ」認証を取得しました。➤1、2ページ

◆ 景観づくりの視点について

景観づくりは身近なところから誰にでもできます。あらためて景観とは何か振り返りましょう➤2 ページ

景観とは？

広辞苑で「①風景外観。けしき。ながめ。また、その美しさ。②自然と人間界のこととが入りまじっている現実のさま」とされているように、単に海や山などの自然を指しているだけではなく、自然と人間の行為（里山や森林の手入れを行う、道路や建築物を建設することなど）を合わせた環境として捉えています。

景観の良い、悪いは眺めの対象の状況と、眺める人の感じ方（印象・価値観）との関係性で変わります。



景観資源を守り、継承していくために ～ブルーフラッグ認証の取得～

山武市には重要な景観資源として海岸があります。山武市では、この美しい海岸を次世代に継承していくため、また、持続可能な社会の構築に向け、海水浴場における環境保全、環境教育を推進する国際環境認証「ブルーフラッグ」の取得に向け様々な取り組みを行ってきました。

「ブルーフラッグ」の取得には、地元自治体および海水浴場の管理・運営者が中心となり、地域住民や利用者と協力し、「環境に関する教育と情報公開」、「水質」、「環境マネージメント」、「安全とサービス」に関する33項目の基準を満たす必要があります。そのため、ブルーフラッグを掲げることができる海水浴場は、だれでも安心・安全な海水浴場として国際的な信頼を得るものとなります。

このたび、平成31年4月に国際審査委員会の審査を経て、山武市の本須賀海水浴場もブルーフラッグの認証を取得することができました。ブルーフラッグの認証を維持していくためには、取得時だけでなく、毎年、厳しい審査を受ける必要があり、その審査の過程において美しい海岸が維持されていくこととなります。

認証決定を受けての写真



ブルーフラッグ認証ロゴ



本須賀海水浴場



ブルーフラッグ認証取得への取り組み



ブルーフラッグとは

ブルーフラッグは、世界 50 の国と約 4,500 箇所で取得されているビーチやマリーナを対象とした環境認証です。ブルーフラッグ認証では、水質、環境教育と情報、環境管理、安全そしてその他のサービスに関する厳しい基準を通じて、ビーチやマリーナにおける持続可能な発展の実現を目指しています。

ブルーフラッグのコンセプトは、1985 年にフランスで誕生しました。1987 年にそのコンセプトが紹介されたのを機に、ヨーロッパ各地においてブルーフラッグプログラムが開始されました。

現在、日本国内において認証を取得したビーチは 4 つとなっています。

2016 年：神奈川県鎌倉市の由比ヶ浜海水浴場、福井県高浜町の若狭和田海水浴場

2019 年：兵庫県神戸市の須磨海水浴場、千葉県山武市の本須賀海水浴場



ブルーフラッグ環境教育セミナー

海岸利用者や地域住民の方々の、ビーチ環境に対する意識が向上するための環境教育活動を実施。



ブルーフラッグの日本事務局である NPO 法人 FEEJapan 様を講師に迎え環境教育に係るセミナーやワークショップを開催、ビーチクリーンなどの現地活動も実施しました。また、イベント時だけでなく、地元団体等の協力により毎月定期的にビーチクリーンを実施しています。



ブルーフラッグ取得記念イベント

ブルーフラッグ取得記念として、令和元年 7 月 13 日に認証旗掲揚セレモニーや山武市出身の世界で活躍するダンサー菅原小春さんによるダンスレッスン・海を活用した各種イベントを開催しました。



まちの緑化・美化活動や海岸清掃なども景観づくりの一つで、景観づくりは、自宅でも、誰にでもできます。「景観づくりの視点」をヒントに、身近なことから始めてみませんか。

「景観づくりの視点」

身近に景観を感じる

- ・徒歩や自転車です市内を散策する
 - ・生き物や植物等、自然を観察する
- など



景観の状況を知る

- ・庭先の掃除、美化をする
 - ・市外から訪れた人に地域を案内する
- など



自ら体験・実践する

- ・市内の景観資源を見て回る
 - ・良い景観、改善すべき景観を考える
- など



取り組みの輪を広げる

- ・近所の人に声をかける
 - ・より多くの活動やイベントに参加する
- など

